



“お天気”

4歳児 マカオ

# 幼年美術

## 607

### 2020 新年特別号

発行所 大阪府東大阪市長田中4丁目6-3  
ぺんてる(株)大阪支社内

全国幼年美術の会 〒577-0013 ☎(06)6747-1601

発行人 木代喜司

年間購読料 3,000円 1部300円(送料込み)



## 第49回 世界児童画展 作品より



“くろくんたちとおえかきえんそく”

6歳児 大阪府



“ドクターイエロー しゅっぱつ”

5歳児 静岡県

新年おめでとうございます。  
皆様にとって良い一年でありますようお祈り申し上げます。

さて、幼年美術の会も今年で五十七年目を迎えようとしています。長年にわたり多くの方々のお力により、成果を積み上げてきた本会が更に充実した年になりますよう、皆様方のお力をお借りいたしたくお願いを申し上げます。しかし残念ながら子ども達をとりまく状況は決して優しいものではありません。虐待をはじめ、いじめの数は減少していません。教育施策の中においても、子ども達の心を豊かにたくましく育てる教科の中の筆頭にあげられる図工・美術の授業時間数は減少されたままです。その様な状況の中で先生方が色々な工夫をされ、少しでも子ども達の心に豊かな情操と未来を切り拓くたくましい力をつける為に努力をされています。幼年美術の会は、多くの先生方と一丸となって明るい未来を築いていく為に努力をしていきたいと思っております。皆様方のご支援・ご協力をお願いいたします次第でございます。

全国幼年美術の会 会長 木代喜司



巻頭言

「新しい年を迎えよう」



講演

演題 〈その2〉

やさしさで考える造形教育  
～子どもが夢を叶える場所～

岡山大学大学院 教育学研究科 教授  
清田 哲男 先生

夏季大学での講演について、前号(606号<12月号>)に続き、講演レジメを掲載し、その内容をお伝えいたします。しっかり筋道を組みたててお話をいただいたので、記載いただいたキーワードをしっかり押さえて、読み解いてみてください。

4 つぶやきを聞いてみよう



( ) 歳前後から、線を走らせながら、「車ブブブー」とか、「信号・・・」「雨が降っているの」など、つぶやきながらイメージを描きます。単なる手の動きを楽しむのではなく、頭のなかでイメージを描いています。

やさしさの造形教育のポイント ②

一人の人間に思いを馳せる

どんな子どもたちに育つでしょうか

( ) 歳くらい → 象徴期

丸や形にかくなど、形が独立し、象徴的に描きはじめます

- 顔だけで友だちの全身を象徴的に丸で表す
- 友だちと遊んだこと丸だけで表す
- 焼き芋を焼いて皆で食べたことを丸だけで



子どもから、つぶやきや絵のお話を聞いて、鉛筆で画面の余白に ( )

親が見てもその内容が分かりやすい

4

やさしさの造形教育のポイント ③

誰かの(私も)「よりよい」への願いをかなえる

どんな子どもたちに育つでしょうか

6 色は強いぞ

ストループ効果



色の理解は ( ) 歳頃から

やさしさの造形教育のポイント ④

この世界に言葉がないと思ってみる

どんな子どもたちに育つでしょうか

6

象徴期の特徴

同時性 その日にあったことを同一画面に全部描きます

- 今日、バスに乗ったよ
- 運動だったよ



拡大描法 興味のあるものは強調して大きく描きます

頭足人

5 願いをかなえよう

この絵は  
子どものどんな願いがかなったかな



子どもたちの  
願いがかなうと・・・

→ ( ) になれる  
→ ( ) になれる

5

8 触って「見つめる」、匂って「みつめる」



「見る」ということは  
 て感じたこと、  
 を相互作用させて  
 感じています。

やさしさの造形教育のポイント ⑤

**五感で「見つめる」**

どんな子どもたちに育つでしょうか

9 ありがとう

やさしさの造形教育のポイント ⑥

**できるだけたくさんの人から「ありがとう」を集める**

どんな子どもたちに育つでしょうか

必要とされる私になる

8

7 空間って何？

図式期 5歳頃～ 図式期は子どもの経験によって変化します

上下の空間認識



基底線 →

斜め上から鳥瞰図(ちようかんず)的 ninnsiki



展開描法

家族への思い(誇張と抹消)



7

**全国幼年美術の会 運営委員会**  
 2019(令和元)年12月9日(金) 10時30分、  
 龍谷大学深草キャンパス

運営委員会報告

出席者

常任委員

木代、大橋、奥山、谷岡、黄瀬、

羽溪

運営委員

相馬(東北幼美)、清川(中国幼

美)、滝川(四国幼美)、南方(和

歌山幼美)、森田(石川幼美)

ぺんてる

大塚、横山、植野

計14名

○会長辞任の件、及び新役員体制について

木代喜司会長より、先の常任委員会での承認を受けて、今年度末(3月)を以て辞任する旨の報告があった。それに伴い、後任の新会長は、大橋功現副会長が選任されました。又、会長提案として、規約に会長・副会長の定年制(75歳)を新たに取り入れることがあり、承認されました。

この新规定を受けて、奥山淑子副会長も、本年度末に退任、新副

会長には、黄瀬重義常任委員の就任が承認されました。

○第56回全国幼年美術夏季大学収支報告

○第57回全国幼美大会について

- ・大会日程  
2020年8月1日(土)  
龍谷大学深草キャンパス  
大会前日(7月31日)の幼美ミ  
ーティング(絵を読む会打合せ)
- ・実技研修について  
(56回大会11講座)
- ・全体会議師について  
(次回常任委員会にて決定予定)
- ・絵を読む会について  
(56回大会11教室)

○機関誌「幼年美術」について

機関誌に代わり、ホームページの作成を検討しています。今後の常任委員会にて話し合っています。



## ぽけっと通信



私たちの有力後援団体である、(公財) 美育文化協会の季刊誌『美育文化ポケット』の新刊第24号(2019 Winter)が、先月発行されていますので、ご紹介します。

今後の保育の方向性に大切な視座として注目される「プロジェクト・アプローチ」、初等教育においても、大変意義ある学びのアプローチです。本紙では、昨夏開催されたポケットミーティングで登壇いただいた。同活動の先駆でもある赤崎こども園の先生方に問いかける形で、「プロジェクト・アプローチ」の姿や意義、そしてその醍醐味を紹介しています。



### 2019 Winter 24号 目次

- |    |  |    |  |
|----|--|----|--|
| 1  | アート「で」生きる力を、社会を溶かす力を<br>佐川 旭   | 34 | 連載 図工室訪問④<br>品川区立第三日野小学校 (東京都)<br>渡邊裕樹   |
| 2  | special feature 特別企画<br>プロジェクト・アプローチを知る10の質問<br>横 英子 + 福田泰雅 + 徳田憲生       | 36 | 連載 アート in WORLD 海外の美術教育事情④<br>イタリア<br>永淵泰一郎  |
| 10 | special practice<br>実践ポケット/プロジェクト・アプローチ編                                 | 38 | practice 実践ポケット【小学校】<br>光が生み出す世界〜こどもが輝く造形遊び〜<br>永井麻希子                                |
| 10 | 【認定こども園】<br>「一人ひとりが感じること・思いを、表現する」を考える<br>濱崎心子                           | 40 | exploration in to the art of infants<br>連載 幼児造形の森⑧<br>フレーベル教育の影響、そしてモンテッソーリへ<br>水島尚喜 |
| 12 | 【認定こども園】<br>こども一人ひとりの興味関心に聴き入ると保育はおもしろい<br>伊藤美帆                          | 41 | word for children, word for art<br>連載 こどものための、アートのための言葉⑧<br>「発達」その2<br>佐藤賢司          |
| 22 | curriculum design<br>こどもと先生のおどろくばこ                                       | 42 | drawing&painting こどもの絵を聴く<br>42 【幼児の部】若山育代   |
| 24 | pocket interview<br>佐塚文彦さん<br>横浜市立若葉台特別支援学校 (横浜若葉学園) 校長/<br>神奈川ポッチャ協会 会長 | 43 | 【小学生の部】奥村高明  |
| 31 | art in life  | 44 | Q&A<br>連載 こどもが育つ造形Q & A<br>佐川早季子 + 小橋暁子  |
| 32 | 連載 0・1・2歳からはじまる造形④<br>冬の出来事<br>磯部錦司                                      |    |  |

新しい年を共々にお迎えしました。今年も宜しくお願いたしました。本号の「運営委員会報告」でもありますが、本号の「運営委員会報告」でもありますが、新年度となる4月から、大橋功副会長が会長に就任いたします。木代先生は会長職としては僅か1年と短い期間ではありましたが、廣富靖海前会長が体調を崩されて何年もの間、その代理として、実質前会長の職務をお勤めいただいたこと、廣富前会長もご自身の高齢と体調が優れないことを理由に、会長職の退任を何度も口にされてきましたが、私を含め周囲が先生に甘えて、ずるずると引き延ばしていたことを反省するところです。そうしての反省から、木代会長より、本会がのちのち健全な形で、若い世代にスムーズにバトンタッチが出来る環境が大切であると、役員定年制を提案されました。そこで先ずは、正副会長の定年を75歳と決めました。まだまだお願いしたくとも、定年が決められたことにより、新しく若い方をお迎えしなくてはならない、一人一人が後を托せる方を迎え入れる、そして育ってもらう、不断の努力が必要となってきます。今を生きているこの私たち一人一人が頼りなくても、後進にこの道を托す勇氣と努力を続ける限り、先人から受け継がれた「幼美」という、素晴らしい学びの環境・場、そして仲間、今後も様々な変革を重ねながら、脈々と生き続けてくれるはずですよ。

私ごとで恐縮ですが、本年還暦を迎える私です。あと10年で身を引く、つまり常任委員の定年を70歳と自ら定め、その覚悟をもって、この学びの環境を、確実に次の方へバトンタッチ出来るよう、残り10年を歩んでいきたいと思っています。恐らくその年になれば、「まだもう少し」と思ってしまうことかもしれません。又、周囲の気遣いにも甘え、「もう少し、もう少し」と、居座ってしまうかもしれない。だからこそ、定年という決まりで、己の身の処し方を良き意味で縛ってもらい、限られた今を精一杯努めていきたいものです。各地区の運営のあり方もそろそろ、勇氣をもって考える良きご縁の年と受け止めています。

(編集担当 羽溪)



あとがき

